

音楽科学習指導案（2）

- 1 題材名 ようすをおもいうかべてうたおう
教材名 歌唱共通教材 「虫のこえ」 文部省唱歌

2 考察

(1) 本題材に関わる児童の実態（男子11名、女子10名、計21名）

- ・ほとんどの児童が元気に楽しく歌っている。「どんな気持ちかな?」「どんな感じかな?」とこちらから問いかけることで、楽曲の気分を感じ取ったり、歌詞の意味を考えたりしながら歌おうとする姿が見られるようになってきた。(関)
- ・児童は今年度学習した「かくれんぼ」の問いと答えの部分について、強弱を工夫することを学んでいる。また「夕やけこやけ」では、歌詞全体から様子や気持ちを想像し、そのことを基にして強弱を工夫し、一人一人がどう歌いたいかという思いを持って表現することを経験した。(創)
- ・友達と一緒に声を合わせて歌う活動に意欲的であるが、必要以上に大きな声で歌ってしまう児童も見られる。また、友達の歌声や伴奏に合わせて歌うことについては、無意識に合わせている様子が見られ、意識して合わせている様子はあまり見られない。(技)

(2) 題材観

- ・本題材は以下の学習指導要領第1学年及び第2学年の内容によるものである。

A 表現(1)イ	歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。
エ	互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。
[共通事項]	強弱、問いと答え

- ・本題材では、明治43年(1910年)発行の『尋常小学読本唱歌』に発表されて以来、その時々の子どもたちに愛され歌い継がれてきた「虫のこえ」を取り上げる。歌詞の内容から、秋の夜、草むらで鳴いている虫の、いろいろな鳴き声に関心を持って、情景を思い浮かべながら歌うことを目指すものである。特に伸ばしたい資質能力は、様子を思い浮かべ、強さの工夫をすること、互いの歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌うことである。
- ・「虫のこえ」は秋の夜、様々な虫たちがそれぞれの鳴き声で鳴いている様子を歌った曲である。虫の鳴き声を表した擬声語から、虫の鳴いている様子を想像し、表現の工夫を楽しむことができる。曲が前半「擬声語」「擬声語以外の部分」、後半「あきのよながを・・・」で構成されており、児童に強弱の工夫をさせる際に楽曲を大きく三つに分けて考えることができる。後半「ああおもしろい」の部分が曲の山になっているので、自然に気持ちが盛り上がり、強弱の工夫をしやすい構成になっている。また、虫の鳴き声を表す歌詞の、様々な擬声語を楽しみながら、声を合わせて歌うことを意識させるのにも適した曲である。
- ・児童はこれまでの音楽活動を通して、友達と楽しく遊び歌を歌ったり、2拍子や3拍子など拍のまとまりを感じながら歌ったりしてきた。本題材の学習は今後、楽曲に取り組む時に、様子や気持ちを思い浮かべながら歌ったり、聴いたりすること、様子や気持ちに合わせて強弱の工夫をすること、さらに表現をする際に、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うことにつながっていく。

(3) 指導方針

- 児童が楽曲から感じ取ったことを基に、思考・判断・表現できるように、「どうい様子かな?」「どうしてそう思ったの?」と投げかけたり、感じたことを基に「どう表現したいか」を必ず問いかけたりするようにする。
- 「虫のこえ」の様子をつかむことができるように、ICTを活用し、虫の写真を見せたり、本物の虫の

鳴き声を聴かせたりする。

- 一人一人が持った思いを、より明確にしたり、別の考え方に気付いたりできるようにするために、ペア活動を取り入れ、お互いの意見を交流する（展開では「伝え合う」場面を設ける）。
- 思いを共有し学級全体で試行する場面では、客観的に聴く力を育てるために、歌うグループと聴くグループに分けて聴き合うようにする。

3 題材の目標

歌詞の表す様子を想像して身近な虫の鳴き声の違いを感じ取り、表現を工夫し、思いを持って歌うことができる。

4 評価規準及び指導の計画概要（全2時間予定）

評価規準	音楽への関心・意欲・態度	歌詞の表す様子を想像し、思いを持って歌う学習に進んで取り組もうとしている。		
	音楽表現の創意工夫	歌詞の表す様子を想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いを持っている。		
	音楽表現の技能	友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて歌っている。		
過程時	主な学習活動	評価		
		◇評価項目（評価方法）	関	創 技
第一次	○範唱を聴き、虫の名前を覚えたり、虫の鳴き声の違いを感じ取ったりしながら歌う。	◇虫たちが鳴いている様子を想像し、思いを持って歌う学習に進んで取り組もうとしている。	○	
第二次	○虫たちが鳴いている様子を想像し、一人一人が思いを持ち、様子に合わせて強弱の工夫をする。 ○虫たちが鳴いている様子を想像し、様子に合わせて考えた、個々の工夫を、学級全体で共有し、試行する。	◇虫たちが鳴いている様子を想像して、強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いを持っている。 (演奏聴取) * 授業モデルプラン2年 No.2-①		○
第三次	○グループごとに、一つの虫の鳴き声を担当し、みんなで虫の様子を想像して強弱を考え、発表する。 ○それぞれのグループで考えた、虫の様子や強弱を、学級全体で共有し、友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて歌う。	◇様子に合わせて表現で、友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて歌っている。 (演奏聴取) * 授業モデルプラン2年 No.2-②		○

5 本時の展開（1/2）

(1) **ねらい** 歌詞の表す様子を想像して、強さを工夫することができるようにする。

(2) **準備** 教師：実物投影機、本物の虫の鳴き声のデータ、拡大した歌詞、ワークシート、大・中・小カード

(3) 展開

学 習 活 動 ・予想する児童の意識	時間 (分)	支援及び指導上の留意点・評価 (◇は評価、◎は「努力を要する」状況の児童への支援)
<p>1 音楽学習に臨む楽しい雰囲気をつくる。</p> <p>○教科書41ページの虫の写真を見ながら、本物の虫の鳴き声を聴き、それぞれの虫がどんな声で鳴くのかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴いたことあるよ。 ・いろいろな虫がいるね。 <p>○虫の鳴き声の大きさは同じかどうか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな鳴き声があるから、大きさもいろいろあると思うな・・・。 ・遠くで鳴いていたり、近くで鳴いていたりするから、大きさも違うと思うよ。 	8	<p>○何の虫の声かクイズ形式を取り入れ、虫の鳴き声に集中して聴けるようにする。</p> <p>○大きさについて考えることで、本時のめあてを捉えやすくする、</p>
<p>2 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ようすを思いうかべて、つよさをくふうしよう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな虫が、それぞれの声で鳴いている様子を思い浮かべて、強さを工夫して歌うんだね。 	2	<p>○工夫の観点を明確にする。</p>
<p>3 「虫のこえ」の曲の感じをつかむ。</p> <p>○教科書41ページの虫の写真を指さしながら範唱を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ虫の名前を覚えたよ。 <p>○範唱に合わせて、虫の名前をリズム打ちする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うまおい」のリズムはおもしろいな。 <p>○歌詞の中に出てくる虫の鳴き声を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいい鳴き声やおもしろい鳴き声、いろいろな鳴き声があるんだね。 <p>○歌詞の内容（季節や時間帯等）を考えながら音読する。</p> <p>先生「虫の声を聴いている人」 児童「虫の鳴き声」 みんなで「あきのよながを～虫の声」 上記のように分担して音読する。</p> <p>○分担して音読した虫の鳴き声を、範唱に合わせて歌う。</p>	10	<p>○児童が意識できるように「虫たちが鳴いている様子を思い浮かべながら聴きましょう。」と言葉がけする。</p> <p>◎教科書の虫の写真を指さすことで、それぞれの虫をイメージできるようにする。</p> <p>○範唱に合わせてリズム打ちすることで、「うまおい」など難しいリズムも、正しく歌えるようにする。</p> <p>◎虫の名前と虫の鳴き声を併せて板書することで、視覚的にも捉えられるようにする。</p> <p>○歌詞が表す様子を想像できるように、音読しながら、言葉の意味を確認したり、問いと答えに気付かせたりする。</p> <p>○音読の際に分担を確認することで、この後の交互唱をスムーズに行えるようにする。</p>
<p>4 一人一人が思いを持ち、様子に合わせて虫の鳴き声の強さの工夫をする。</p>		

- 「虫の鳴き声」の大きさを、大・中・小、それぞれのパターンで歌ってみる。
- 「虫の鳴き声」を「どの強さで歌いたいかな」を選択する。また、なぜその大きさを選んだのか、どんな様子を思い浮かべたのか、その理由も考えワークシートに記入し、ペアで伝え合い試行する。
 - ・大きく歌いたいのは、虫たちが仲間を呼んでいるからだよ。
 - ・みんなに見つからないように小さく歌いたいな・・・。

〈ねらいを達成した児童の意識〉

A：ぼくは、虫が鳴いているのは夜だから、寝ている人を起こさないように、中くらいの大きさを歌いたいな。

B：なるほど・・・。

A：そこは中くらいの大きさを歌ってみるから聴いていてね。

B：うん。(そこを注意して聴こう)

- 虫の鳴き声の大きさ、「大・中・小」を、「その大きさにした理由」や「思い浮かべた様子」を確認しながら、学級全体で歌って試してみる。
 - ・自分が決めた大きさととは違うけど、歌ってみたら「これもいいかもしれない」と感じたよ。

- 5 本時のまとめをする。
- 本時のめあてを改めて確認して、虫たちが鳴いている様子を思い浮かべ、様子に合った大きさを「虫のこえ」を歌う。
 - ・虫たちが楽しそうに鳴いている様子を思い浮かべながら、虫の鳴き声は中くらいの大きさがいいなと思ったよ。
 - ワークシートに自己評価を記入する。

20

- 強弱のとらえ方は、児童の実態に即して、大・中・小で表すこととする。
- 虫たちが鳴いている様子を想像しやすいように、以下のように指導者が例を示すようにする。

例：虫の鳴き声を小さく歌って見せ「今の大きさは、大・中・小どれでしょう？」と問いかける。そして、「いま鳴いていた虫の様子は、『元気いっぱい虫さん達』『みんなに見つからないようにこっそり鳴いている虫さん達』どちらでしょう？」

- 一人一人の思いをペアで伝え合うことでお互いの考えを交流し、強弱について工夫することを共有できるようにする。
- 試行の際、「虫の鳴き声を聴いている人」「虫の鳴き声」を交互唱し、「あきのよなが～虫のこえ」は二人で歌う。

◇虫たちが鳴いている様子を想像し、思いを持って歌う学習に進んで取り組もうとしている。 (表情観察)【関】

◇虫たちが鳴いている様子を想像して、強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いを持っている。 (演奏聴取)【創】

- それぞれの大きさを試す際には、どんな様子を思い浮かべて歌うか確認し、大きさと様子を関連させて考えられるようにする。
- それぞれの大きさを歌って試すことで、自分の考えとは違う大きさのよさに、気付くことができるようにする。

5

- 歌う前に「どんな様子を思い浮かべて歌いますか?」「どんな大きさを歌いますか?」と確認し、歌い終わったら、本時の学習の成果を実感することができるように、虫たちが鳴いている様子を想像し、強さを工夫して歌えたことを称賛する。

5 本時の展開 (2/2)

- (1) **ねらい** 歌詞の表す様子を想像し、友達の歌声を聴きながら自分の声を合わせて歌うことができるようにする。
- (2) **準備** 教師：本物の虫の鳴き声のデータ、拡大した歌詞、ワークシート、大・中・小カード
- (3) **展開**

学 習 活 動 ・予想する児童の意識	時間 (分)	支援及び指導上の留意点・評価 (◇は評価、◎は「努力を要する」状況の児童への支援)
1 音楽学習に臨む楽しい雰囲気を作る。 ○虫たちが鳴いている様子を想像し、前時の学習を振り返りながら、自分が選んだ、様子に合った大きさに「虫のこえ」を歌う。	5	○前時の学習を想起させて、歌う前に「どんな様子を思い浮かべて歌いますか?」「どんな大きさを歌いますか?」と確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">こえを合わせて、2年○組の「虫のこえ」をうたおう</div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・強さの工夫だけではなくて、みんなで声を合わせて歌うことに気を付けるんだね。 	5	○前時の強弱の工夫を生かし、本時では「みんなで虫の鳴き声の強さを考えて『2年○組の虫のこえ』をみんなで声を合わせて歌おう。」と呼びかけることで、児童の意欲を高めるようにする。
<p>3 みんなで虫の鳴き声の強さを考えた「2年○組の虫のこえ」を、友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて歌う。</p> <p>○グループごとに、一つの虫の鳴き声を担当し、グループのみんなで虫の様子を想像して強弱を考え、発表する。</p> <p>○それぞれのグループで考えた虫の様子や強弱を、学級全体で共有し、友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて歌う。</p> <p>○みんなで声を合わせて歌うためには、どんなことに気を付けたらいいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの声をよく聴くようにすることが大切だね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">〈ねらいを達成した児童の意識〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で歌う時も、小さな声で歌う時も、周りの友達の声をよく聴きながら合わせようと意識して歌ったよ。 </div>	25	<p>○グループ編成については、児童に自由に虫を選ばせたり、生活班などの既存のグループにくじを引かせて虫を割り当てたりするなど、学級の実態に合わせるようにする。</p> <p>○グループごとに話し合う時には、担当した虫はどんな虫なのか? 鳴き声はどの大きさを歌うのか? の二つにポイントをしぼる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>例 元気いっぱいの くつわ虫 です。鳴き声の「ガチャガチャガチャガチャ」は 大きな声 で歌ってください。</p> </div> <p>○目を閉じて歌ってみることで、声を合わせるには、よく聴くことが大切であることに気付くことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>◇様子に合わせた表現で、友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて歌っている。 (演奏聴取)【技】</p> </div>
4 本時のまとめをする。 ○本時のめあてを改めて確認し、みんなで声を合わせて歌う。 ・みんなで声を合わせて歌うと、楽しいな。 ○ワークシートに自己評価を記入する。	10	○歌い終わった後に「友達の声をよく聴きながら、みんなで声を合わせて歌ってみてどうだった?」と問いかけ、本時の学習の成果を実感することができるようにする。

板書計画

「虫のこえ」(1/2)

P40・41 「虫のこえ」

めあて ようすをおもいうかべて、つよさをくふうしよう (大) (中) (小)

まつ虫 「チンチロチンチロチンチロリン」
 すず虫 「リンリンリンリンリーンリン」
 ・
 ・
 ・

(大) なかまをよんでいる

 (中) ねている人をおこさないように

 (小) 見つからないように

「虫のこえ」

一 あれ まつ虫が ないて いる
 「チンチロチンチロチンチロリン」
 あれ すず虫も なき出した
 「リンリンリンリンリーンリン」

二 「キリキリキリキリ」こおろぎや
 「ガチャガチャガチャガチャ」
 あとから うまおい おいついて
 「チョンチョンスイツチョン」
 くつわ虫

あきの よながを なきとおす
 ああ おもしろい 虫の こえ

あきの よながを なきとおす
 ああ おもしろい 虫の こえ

「虫のこえ」(2/2)

P40・41 「虫のこえ」

めあて 声を合わせて、2年〇組の「虫のこえ」をうたおう

まつ虫
 すず虫
 こおろぎ
 くつわ虫 元気いっぱい
 うまおい

声を合わせるには

友だちの声をよくきくことがたいせつ。

「虫のこえ」

一 あれ まつ虫が ないて いる
 「チンチロチンチロチンチロリン」
 あれ すず虫も なき出した
 「リンリンリンリンリーンリン」

二 「キリキリキリキリ」こおろぎや
 「ガチャガチャガチャガチャ」
 あとから うまおい おいついて
 「チョンチョンスイツチョン」
 くつわ虫

あきの よながを なきとおす
 ああ おもしろい 虫の こえ

あきの よながを なきとおす
 ああ おもしろい 虫の こえ